

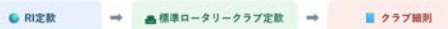
RI定款・標準ロータリークラブ定款・細則について

ロータリークラブ運営の基本となる3つの規定を分かりやすく整理

本日のロータリー情報の時間では、クラブ運営の基本となる「RI定款」、「標準ロータリークラブ定款」、「クラブ細則」についてお話ししました。それぞれの役割を理解することは、クラブ活動を円滑に進めるうえで大切です。

<p>RI定款</p> <p>国際ロータリー（RI）全体の組織運営の基礎となる規定</p> <ul style="list-style-type: none"> 名称・目的 会員・理事会 総会・規定審議会 会費・ロータリー財団 細則・解釈・改正手続き 	<p>標準ロータリークラブ定款</p> <p>各クラブが採用する、クラブ運営の基本ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブの名称・目的・所在地 五大奉仕 会合・会員の身分 職掌分掌・出席 理事・役員・幹事・調停 細則・解釈・改正 	<p>クラブ細則</p> <p>各クラブの実情に応じて定める具体的な運営ルール</p> <ul style="list-style-type: none"> 定数に抵触しない範囲で運用 会員の議決により改正可能 クラブ独自の実質的な取り決めを整理 運営の円滑化に役立つ重要な規定
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3つの規定の関係



上位規定に基づいて下位規定が成り立つという関係があり、クラブ運営はこれらの規定を土台として行われています。

重要なポイント

RI定款や標準ロータリークラブ定款は、各クラブが自由に変更できるものではなく、原則として規定審議会の議決によるなければ改正できません。

会員としての心構え

条文すべてを覚えることは難しくても、自分に関わる部分に応じて確認する姿勢が大切です。基本ルールを理解することが、円滑なクラブ運営につながります。

当クラブにおける基本事項

当クラブにおいても、クラブの名称や所在地など、定款に基づく基本事項が定められています。これらはクラブ運営の土台であり、会員にとっても大切なルールです。

まとめ

ロータリークラブの運営は、RI定款、標準ロータリークラブ定款、クラブ細則という基本規定に基づいて成り立っています。今後も機会を見て、クラブ細則などについて理解を深めていくことが大切です。

委員会報告

(社会奉仕担当委員長 宮川義行)



◆地区社会奉仕部門では、子ども食堂支援と並んで取り組まれているのが、ロータリー地域社会共同体、RCCです。地域で社会貢献活動をしている団体やグループと提携し共同で取り組み、ロータリーの補助金を活用していくというものです。東南ロータリークラブとしても、チャンスがあれば取り組み、この社会貢献活動を通して会員増強につなげられたらいいかと思います。5月14日、青柳で西南ロータリーの牧さんの107歳のお祝いがありました。数えて108歳なので茶寿というそうです。青柳でも、創業初めてのお祝いだったそうです。佐野さんが尊敬してやまなかった牧さんは、今でもバスで通い、ニュースカイホテルでの例会に参加されています。二次会の会場シャングリラで西南の皆さんと合流、喜びを分かち合いました。特攻隊の整備隊長だった牧さんの卓話をもう一度、お聞きしたいと思います。

出席報告

(出席・プログラム担当委員 内田信行)



月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率 (%)
05月06日	休会	-	-	-	-
05月20日	38 (免1) 37	29 (ZOOM3)			78.38

☆出席免除

05月20日 島村徹男

■スマイル

(親睦・スマイル担当委員長 片岡貞志)



◎山田公也 10,000円

今日は気分爽快。だからスマイルします。



◎宮川義行 5,000円

新本様のご来訪を歓迎します。

本日は卓話宜しく申し上げます。

52年前、21歳の時に熊本に戻ってきた僕は、縁があって商大の学生たちと仲良くなり今でも交流が続いています。その1人が商大の裏の喫茶店シャンプーのマスターで



した。ここは学生のたまり場でした。特に軽音楽部が多くほとんどの学生が、うちでもアルバイトをしてくれました。その1人は、卒業してサザンオールスターズのマネージャーを20年担当した相馬君。1人は今でも宮川塗装の責任者をしています。1人は大分津久見に戻ります。東南のみんなと大分で食事したこともある増田君です。その後シャンプーのマスターは、サンワ工務店の手伝いをします。山野社長は夜は真っ暗な上通りを若者の街にしようとして倉庫を建てます。マスターから、塗装を手伝ってくれと頼まれます。上乃裏は次々と古民家再生の街になります。その頃に、シャンプーのマスターの紹介で、新本さんと知り合い今に至っています。一つの道をたゆまず歩まれてこられた姿に敬服いたします。どうか、これからも赤い自転車で体力維持と社会奉仕に、頑張ってください。

◎堤勝也 2,000円

新本高志様、卓話宜しく申し上げます。

お忙しいところありがとうございます。



◎草村安宏 2,000円

新本さんの卓話楽しみにしております。

本日は宜しく願いたします。



■卓話

◆「トタン屋根のケーキ屋 ア・ラモート」新本高志 様
演題：あなたのためにできること



皆さま、どうもありがとうございます。

本日はお招きいただきまして、本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。

まず、こうして皆さまの前でお話をさせていただくとき、私はいつも思うんです。「有名になったから」とか、「テレビに出たから」とか、「新聞に載ったから」とか、「立派になったから」と呼ばれた、ということでは決してありません。

皆さまの前でお話をさせていただくということは、私にとっては、自分を反省する時間なんです。

こうして皆さまの前に立たせていただいて、「自分は本当にどうだろうか」「ちゃんと感謝して生きているだろうか」と、振り返らせていただく時間でございます。

そのような反省の時間を、本日、宮川さんにご準備いただきました。本当にありがとうございます。

そして何よりも、今日は久しぶりの外食でございます。私と家内が年に一回か二回、「行きたいね」と言っているキャッスルの中華料理を、こうしていただくことができました。できることなら、おかわりもしたかったくらいです。ただ、おかわりは今度、家内と一生懸命働いて、小腹で来たいと思います。

人様の前でお話をするときには、本当は、知らない場所で、知らない方ばかりの前で話すのがいいんです。

ところが今日は、この限られた空間の中に、知った方がたくさんいらっしゃいます。

私の息子の同級生のお父さまをはじめ、宮川社長、そして生駒さん。特に生駒さんのお母さまは、私が35年前に初めて自転車でケーキを売りに上通を歩いたとき、一番最初にケーキを買ってくださった方でございます。

そのとき、お母さまがおっしゃった言葉が、今でも忘れられません。

「自転車も立派なお店だから、卑下する必要はない。あそこの店が立派で、あなたの商いが劣っているなんてことは決してない。

その代わりに、あなた、一つだけ約束しなさい。

自転車も立派なお店だからね。続けたいといけないわよ。続けることが、新しいものを古くしないのよ」

そのお母さまの言葉を、私は今も守っているだけでございます。今日、そのご縁のある方々にまたお会いできたことを、この場をお借りして感謝申し上げます。

それから、先ほど鈴木さんが目の手術のお話をされました。目がよく見えるようになられて、本当に良かったです。

ただ、私が個人的に思いますのは、小説家の五木寛之さんが以前、こうおっしゃったことがあるんです。

「新本さん、年を重ねて目が悪くなるのも、そんなに悪いことばかりじゃないよ。なぜかという、朝起きて洗面所の鏡の前に立ったとき、目がよくなったころは、自分の顔のシミもソバカスもはつきり見えた。でも、少しぼやけて見えるようになると、40年間連れ添った家内の顔も、なんとなく今日も綺麗な、と思えるんだよ」

鈴木さんは80歳を過ぎたとおっしゃいましたが、まだまだお元気です。私から見ると、80歳とおっしゃっても、20歳の青年が4人おられると思えば、苦になりません。大丈夫でございます。

ありがたいことに、私は3か月に一回くらいの平均で、夫婦喧嘩をさせていただいております。この間も、その日がやってまいりました。

なんでもないことなんです。

突然、久しぶりに娘が家に帰ってきました、和やかな雰囲気の中で、娘が言いました。

「お父さん、私が生まれたころにケーキを始めて、もう35年になるね。あのころ、自転車の荷台に私たちを積んで連れて行ってくれてありがとう。そのおかげで、今日までの私があるわ」

そう言ってくれたんです。

「そういえばお父さん、最近ちょっと遠くまで行っているみたいだけど、どの辺りまで行っているの」

そう聞かれまして、私は思い出したんです。

「ああ、そういえば3日前に電話があったな。80代後半のおばあちゃんが、私のケーキをどうしても食べたいとおっしゃった。『私の家は遠いけれど、あなたは自転車でどんな遠いところでも来ますか』と聞かれたので、『大丈夫ですよ。月曜日は休みですから、休みの日を利用して行きます』と答えた」

くるみ、栗、りんごのケーキがありますので、初めて食べるから3本持ってきてください、というご注文でした。

ところが、私は行き先をきちんと聞いていなかったんです。この「行き先を聞いていなかった」という時点で、家内との夫婦喧嘩が始まりました。

「お父さん、あなたはおっちょこちょいなんだから、ちゃんと行き先を聞かないといけません。もう一度電話しなさい」

「そうだね。確か宇土方面とおっしゃっていたから」

「宇土方面も、その先は松橋もあれば、八代もありますから」

それで電話したんです。

「こんにちは。この間お電話いただきました、ア・ラモートです」

すると、おばあちゃんが、

「ケーキ屋さん。久しぶりにあと3日したら会えるね」

とおっしゃる。

「ところで、宇土方面とおっしゃいましたけれども、宇土から松橋来ると。

松橋から県道鏡線をまっすぐ行くと八代に。

そして八代でちょっと休憩した方がいいかもしれないわね」

ここで私は聞きました。

「八代方面のどちらですか」

すると、

「人吉」

この言葉には、距離というものが入っております。

自転車でパウンドケーキを3本、人吉まで持ってこいというおばあちゃん。

それを真に受けて、まじめに持っていこうとする私。

うちの奥様からは、大変なお叱りを受けました。

「お父さん。物事には許容範囲というものがあるでしょう。

まだまだ子どももこれから成長しないといけないのに、言えることと見せることがあるでしょう。死にますよ」

息子が言いました。

「お父さん。お父さんの自転車の速度と、人吉までの時間を計算してみた。

何時間で行くか。お父さん、14時間」

もう、思わず口も開きませんでした。

出発の日は、午前3時には目が覚めました。

遠方に行くときには、自転車の荷台の下に木箱を積みます。

そして籠にケーキを積みます。

人吉までは約110キロ。

道中、坂道もありますから、押して歩かなければならないところもあります。

家内が言いました。

「用心して行かんといかんよ」

「わかった。帰ってこれないかもしれん」

息子が玄関で見送ってくれました。

「お父さん、生きて帰ってきてください」

商いというのは、やっぱり命がけですね。

商いに優劣はないと思うんです。

大事なものは、自分の小さなお店、小さな会社、自分の仕事、自分の人生に、どれだけ感謝の気持ちを持っているかということだと思います。

人は人。

自分は自分です。

でも、ロータリーに入られたおかげで、皆さんもいろいろな方と知り合い、共に道を歩んでこられたと思います。

どんなふう生きてきたか、ということも大事ですが、誰とともに手をつなぎ、手を携え、励まし合い、寄り添って生きてきたか。

それがとても大事だと、私は思うんです。

八代を過ぎて、坂本というところがあります。

そこで、あるおばあちゃんが言いました。

「今年も来たね、ケーキ屋さん。あんたとは年に一回しか会えない。今年も来たね」

「今日はどこまで行くの」

「人吉まで行きます」

するとおばあちゃんが、

「あんたみたいなオンボロ自転車、熊川沿いはトラックがバンバン通る。危ないよ。用心して行かないと」

そう言われました。

でも、約束というものは、守るためにあるんですね。

たった3本のケーキかもしれませぬ。

でも、楽しみにしているおばあちゃんとの約束です。

その約束を守るという前提があるから、人と人の関係が成り立つんだと思います。

人吉はいいところです。

人吉でいいんです。

人がいいから、人吉です。

そのおばあちゃんが言いました。

「あんたにお土産を持たせてやろう」

卓話完全版はこちら→



■点鐘

(編集 松尾 浩)